

## 春のアブラゼミ 第8日目 「ETの法則」①

組 ( ) 番号 ( ) 氏名 ( )

Learning words increases the size of a child's vocabulary. Behind this obvious truth lies a set of complex issues concerning the wide range of information that children employ in learning new words. But does the size of a child's vocabulary influence how he or she learns or retains new words? Clearly, there must be a relationship between the child's ability to learn new words and the size of his or her vocabulary.

### 和訳

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

### 参考

- ・ obvious(形)「明白な」
- ・ a set of ~ 「一連の~」
- ・ complex issues 「複雑な問題」
- ・ concern(動)「関係する」「関わる」
- ・ a wide range of ~ 「広範囲の~」「幅広い~」
- ・ employ (動)「手段として用いる」「人を採用する」

### 英文の読み方

1. 前置詞＋名詞は他の部分から切り分けて形容詞か副詞かを考える。
2. and, but, or が出てきたら直後に注目し、直前に同じ形を探す。
3. a, an, the が出てきたら名詞を探す。
4. 助動詞の後ろには動詞がある。be ~ to や ~ to を助動詞考えれば簡単に動詞が見つかる。
5. 文中副詞の後ろには(一般)動詞がある。文中副詞のほとんどが「-ly」の形をしている。
6. 文頭に前置詞＋名詞があり、直後に動詞があれば、完全逆転型の倒置。
7. 文頭に否定語があり、直後が疑問文の並び方なら、疑問文型の倒置。
8. 省略は「同型反復」に注目すればすぐ分かる。
9. A of B が出てきたら「BがAする」「BをAする」「Bの持つA」「BというA」「AのB」を特定する。
10. that, -ing, to-が出てきたら「名詞」「形容詞」「副詞」を特定する。-, -ing のコンマ(,)の省略に注意。

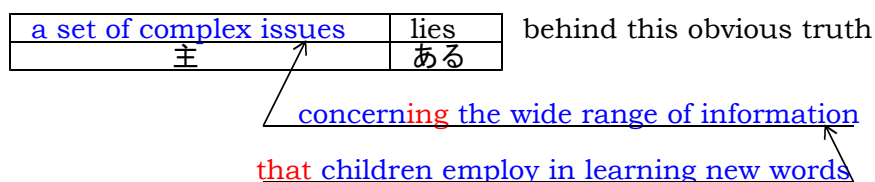
### 注意点

「前置詞＋名詞」は他の部分から切り分けて、形容詞か副詞かを考えます。第2文冒頭にある Behind this obvious truth の「前置詞＋名詞」は、直前に飾られる名詞がないので、副詞だと分かります。じゃあ、この文の主語はどれでしょうか？

この英文和訳のポイントは、第2文の主語がちゃんと分かるかどうかです。主語になるのは、名詞ですから、Behind this obvious truth の「前置詞＋名詞」は主語にはなれません。これは、間違いなく副詞です。じゃあ、その後ろに主語があたろうと期待して見てみると、lies はどう考えても「ある」の意味の動詞です。これは変ですよ！つまり、文頭副詞の次は主語＋動詞が出てこなければならないのに、主語をすっ飛ばして、いきなり動詞が出てきているから普通ではありません。

あ、lie を「横たわる」とか「横たえる」とやるのはもうやめましょう！だって、「ちょっと疲れたので、僕はソファに横たわった」とか「自分の携帯電話を机の上に横たえた」って普段言う？言わないでしょ！普通は「ソファで寝る」とか「ソファに横になる」、「携帯を机に置く」だよね。だから、lie は「人は寝る」「モノは置く」または「モノがそこに（置いて）ある」と覚えます。

さて、「前置詞＋名詞」の文頭副詞の次に、なぜいきなり動詞が出てきたのかというと、元の英文が頭でっかちの E T 型だったからです。次の見取り図を見てください。



ほらね！主語の a set of complex issues にものすごく長い飾りがひっついているでしょ！青い部分が全部主語です。これこそまさに頭でっかちの E T 型ですよ。この長い飾りは現在分詞の ing で「～している」の意味の形容詞と、関係代名詞の that です。

▼幅広い情報に関わっている問題

issues concern<sup>ing</sup> the wide range of information

▼子供が新しい言葉を覚える時に使う情報

information <sup>that</sup> children employ in learning new words

これは「ルール16」に出てきたこの例文と同じでしたね。

▼日本を扱っている本

a book deal<sup>ing</sup> with Japan

▼父が僕に買ってくれた本

a book <sup>that</sup> Father bought for me

この英文がちょっとやっかいなのは employ の訳出です。普通は「人を雇う」という意味の employ が「(武器や手段や時間など)を使う」の意味で用いられています。ま、「人を使う」ことが「人を雇う」ことだから、日本語の「雇う」にも「使う」の意味が含まれていますよね。だから employ は「使う」と覚えておく方が有利です。

■読書に時間を使う

employ one's time in reading

■勉強にエネルギーを使う

employ one's energies in studying

■報復に核兵器を使用する

employ nuclear weapons in retaliation

さて、この不安定な E T 型の英文の安定を良くするためには、文を完全に逆に読みます。つまり、主語＋動詞＋文末副詞の順番を完全に逆にして、文末副詞＋動詞＋主語の順にします。そうすることで、長い主語が後ろに回って、お尻のでっかい関取型になるわけです。これを「完全逆転型」の倒置といいます。だから、「前置詞＋名詞」の次に動詞がでたら、「完全逆転型」だと思っていれば良いわけですね。

<見取図>

・ Learning words increases the size of a child's vocabulary.

Learning words	increases	the size of a child's vocabulary
主	増やす	何を

\* Learning words の-ing は動名詞のことシリーズ。Learning words はモノ主語だから、副詞化して「原因」「条件」「手段」で訳してやる。だから、ここでは原因にしてやって「言葉を学習すると」とか「言葉を学ぶことによって」になる。忘れた子は数研の <http://blog.meigaku.ac.jp/yabu/?p=1681> を参照のこと。  
 \* increase は他動詞で「増やす」で「増やす+何を」の語順になる。だから「AはBを増やす」となるのだが、Aはモノ主語なので原因で訳したので「AによってBが増える」と自動詞化するとカッコいい日本語になる。ま、できなければ「言葉を学習することは子供の語彙を増やす」でも良い。これができないからと言って大学に入れないわけではない。

【全訳例】新しい言葉を学習すると、子供の語彙の量が増える。

・ Behind this obvious truth lies a set of complex issues concerning the wide range of information that children employ in learning new words.

a set of complex issues	lies	behind this obvious truth
主	ある	

concerning the wide range of information  
 that children employ in learning new words

\* a set of A で「一連のA」とか「一組のA」の意味。この A of B は「AのB」と訳出できるので「単位・数量の of」。  
 \* this obvious truth の具体的内容は、前文の「新しい言葉を学習すると、子供の語彙数が増えること」を指す。  
 \* wide range of A で「幅広いA」。これも A of B が「AのB」と訳せるので「単位・数量」。  
 \* employ A は「Aを使う」。

【全訳例】この明白な事実の背後には、新しい言葉を覚えるときに子供の用いる幅広い情報に関する一連の複雑な問題がある。

・ But does the size of a child's vocabulary influence how he or she learns, or retains, new words?

But

the size of a child's vocabulary	influence	how+文
主	影響する	何に

<文>

he or she	learns or retains	new words
主	どうした	何を

\* the size of A で「Aの大きさ」。これは the A's size と「アポソトロフィ S」を使っても書けるので「所有格の of」。  
 \* A or B の意味は「AまたはB」だけではない。「A言い換えるとB」の同格にもなることに注意。ここでは、「新しい言葉を学習すること、言い換えるとそれを記憶すること」の意味。  
 \* how S + V は「どのようにSがVするのかということ」の意味で、that + 文と同じ「ことシリーズ」の仲間。

【全訳例】でも、子供の語彙の量は、子供の新しい言葉の学び方、言い換えると、新しい言葉の記憶の仕方に影響を及ぼすのだろうか。

・ Clearly, there must be a relationship between the child's ability to learn new words and the size of his or her vocabulary.

Clearly

there	(must) be	a relationship	between	the child's ability
B	=	A	and	the size of his or her vocabulary

to learn new words

\* ability to do で「～する能力」

【全訳例】明らかに、子供が新しい言葉を学ぶ能力と、語彙の量との間には何らかの関係があるに違いないのだ。